

三重県立明野高等学校

<農場の基本情報>

所在地：三重県伊勢市小俣町
構成員：食品科学科1、2年性 15名
経営面積：40a（認証取得面積：40a）

取得GAP

ASIAGAP茶Ver.2.1 緑茶・紅茶

取得年月日 平成31年4月16日

<GAP認証取得のきっかけ>

- ・三重県GAP推進大会がGAP教育に力を入れるきっかけとなった。平成29年9月に食品科学科の1、2年生12名が自主的に集まり、教員の指導のもと授業以外の時間（放課後等）を活用してGAP認証取得に向けた取組を実施。東海地区の高校で初（全国で2番目）のJGAP(茶)認証を取得。
- ・JGAPからASIAGAP茶Ver.2.1への移行に取り組み、31年4月認証取得。

<GAPの認証取得で苦労したこと>

- ・教育現場では、日頃より教員の指導のもと整理整頓、作業記録の記帳を行っており、一般の農業者よりはGAPが取得しやすかったと考えている。
- ・しかし、各項目におけるリスク評価の実施では、授業等で習っていない知識が必要となる項目もあり、生徒が苦労。
- ・また、ASIAGAPへの移行に際し、JGAP取得では必要のなかった、HACCPの衛生管理の理論の習得や農場管理の手順のマニュアル化に時間を要した。

<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

- ・食品科学科の生徒は、食品関係の企業への就職も多く、GAPの計画からチェック体制、HACCPの理論に至るまで学ぶことができたことは、今後の就職を検討する上で良い経験になると考えている。
- ・GAP認証取得報告会での発表や、認証食材（茶）のPRイベントへの参加などは、生徒にとって良い体験となっている。30年に帝国ホテルで開催された三重の食材PRイベントに参加以降、企業等から認証食材（茶）への問合せが増えている。東京「グランイト銀座」に認証食材として微粉末茶が採用され、31年3月19日のオープニングイベントに参加（吉川農林水産大臣、小泉衆議院議員からも激励を受けた。）
- ・31年3月より、JAL機内食に、高校生が生産したGAP認証食材（茶）が全国で初めて使用された。

<今後の取組課題>

- ・高校では毎年取り組む生徒が変わってくるため、取組の継続性が課題となる。
- ・また、更新費用等の経費の確保や労働環境確保のため、老朽化した施設や設備の更新も課題。

お問い合わせ先

食品科学科 主任 近藤 博巳 0596-37-4125（代表）

<農場の基本情報>

所在地：三重県伊勢市小俣町
構成員：生産科学科クラス(40名)の中の
作物部門9名でチームを発足
経営面積：157a
(認証取得面積：141a)

取得GAP

GLOBALG.A.P.穀物
コンバイン作物 米

取得年月日
平成30年9月30日

<GAP認証取得のきっかけ>

- ・平成29年7月の「三重県GAP推進大会」を受けてGAPチームが発足、農場で栽培していた米と茶でのGAP認証取得を目指したところ、30年3月に茶のJGAP認証を取得（東海地区の高校では初）、30年9月に米のGLOBALG.A.P.認証を取得（東海地区の高校では初）。

<GAPの認証取得で苦労したこと>

- ・3年生になってから専攻に分かれての実習のため、年間の作業を経験していない状態でのGAPへの取り組みだったため、リスク評価を行うことが難しかった。特に、農業については、授業で習っておらず知識がなかったので、大変苦労した。

<GAP認証取得による効果や改善されたこと>

- ・GAP認証により、東京にある県アンテナショップ「三重テラス」において当校のお米が販売されるようになった。
- ・東京オリパラのケータリングサービスを行う会社に対しプレゼンを実施した。（プレゼン先で検討中）
- ・地元企業との新商品の開発など地域活性化につながった。

<今後の取組課題>

- ・GAPを取得して終わりではない。GLOBALG.A.P.は、1年ごとの更新であるため、今後も後輩が継続してGAPに取り組むことが必要。
- ・研修の受入や生徒によるコンサルティングを実施して、地元でのGAPの普及を推進していく。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック選手村への食材提供（約3トン）が最終目標。

お問い合わせ先

生産科学科 作物部門 西 恭平 0596-37-4125（代表）